



# がんばん

島原市立第三小学校  
育友会報  
発行部  
広報部

【第117号】



待ちに待った夏休み！

## 楽しかった修学旅行



### \* 主な記事 \*

- 私の夏休みの思い出！【副会長さん紹介】 (2面)
- 白山地区健全育成会主催スケッチ大会。 (3面)
- 学級代議員研修会を開いて。
- 学校週五日制、私はこう思う。 (4面～6面)
- 修学旅行を終えて。 (7面)
- ふるさと再発見、広馬場の水神さま。
- 専門部活動紹介。 (8面～9面)
- かぶとむしありがとう。 (10面)
- 健康部だより。



# 私の夏休みの思い出!

副会長  
平野義信

先日、新聞の余録の欄に、昔あれほどあった原っぱや空き地が次になくなったとありました。その中で、ある大学教授が、大人が子供から奪ったものが五つあるという。「一つが空閒、一つは仲間、一つは子供同士の遊びの継承、一つは夢や希望、もう一つは時間。」夏休みも塾通いで、自分の時間はない。原っぱを奪われ、時間を取り上げられた子供は気の毒だ。子供にそんな仕打ちをしている大人たちが、一カ月の夏休みは長いのか短いのかと言っている。どこかおかしい。……とありました。そういうえば私達の子供の頃は、



夏の反省

そこらじゅうに原っぱや空き地があり、同級生や近所の友達(先輩、後輩)と日が暮れるのを忘れ、遊んだことを思い出します。

時代の流れでしょうか、社会の変化でしょうか、また、親のエゴ、見えてしまうか、あるいは、教育そのものが変わってきたのでしょうか、何か考えさせられます。

もうすぐ楽しい夏休みです。子ども達には、小学生の時にしか過ごすことのできない思い出に残る夏休みにしてもらいたいものです。



副会長  
内田憲一郎

私は、湊町(昔は通称蛭子鼻)に生まれ、三才の頃高島町に引越

し、昭和六十三年に西八幡町に移転してきました。幼稚園の頃、すでに登校拒否ならぬ、登園拒否をしました。腕っふしの強い女の子がいて、積木で頭を殴られたのが原因です。そのせいかどうかわかりませんが、うちは力カア天下です(?)。

小学生の頃は野球少年、今の子ども達は立派なユニフォームを持っています。昔はありませんでした。グローブもユニフォームも母の手作りで、毎日暗くなるまで練習をしていました。もちろん、西鉄ライオンズのファンで、国光屋にキャンプに来ていた選手にも行ったサインが宝ものでした。

夏休みには、猛島海岸に泳ぎに行ったり、魚釣りをしたり、キャンプに行ったり、本当によく遊び、よく遊びました。

子供は、中一の女の子と五年三組の男子ですが、勉強せんか、と時々かみなりを落とします。けれども、自分の子供の頃を思い出すと、少し胸が痛む今日この頃です。

副会長  
黒田美子

私の子供の頃は、ずっとく、昔になります。テレビがまだ床屋さんや限られた家にしかない時代の



夏休みは、のどかなものでした。

すぐ家の下に、びわの木畑があり、木の下は暑い日差しがさえぎられ、涼しくて木と木の間にゴザを敷いて、近所の子ども達が集まり、学校ごっこや蟬を取ったり、木に登ったりしたものです。すぐそばに、たぶの木という大木があり、こんもりした葉をゆすると、かぶと虫やくわがた虫がポトポト落ちてきて、けんかをさせたり、大木の幹が太くて、その上で寝たり走ったり、よく落ちなかったものです。小さくて登れない子は、途中まで登らせて、先に登った子が手を伸ばして、幹から幹へ移る手助けをする、何げない遊びの中で、自然の木や生き物がやさしい心を育ててくれていた事を思い出すと、今の子ども達にももっとゆっくり、のどかな時間をあげたいと願わずにおれません。

白山地区青少年健全育成会 主催

## 水と緑の子供スケッチ大会

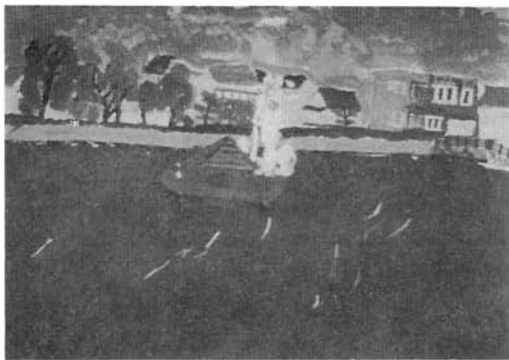
「みどりの日」にちなむ四月二十九日、一四六名もの児童が参加して、第八回水と緑の子供スケッチ大会が開催され、審査の結果、三小児童から最優秀賞に六年生の小平貴博君が選ばれました。

また、優秀賞には二年生の高崎すみえさん、四年生の泉加奈子さん、六年生の上田奈菜さんが選ばれ、奨励賞には一年生の中村かおりさん、二年生の内田雄大君、小

川ともよさん、蒲地みかさん、三年生の本田有美さん、四年生の松本理子さん、五年生の中岡歩さん、松本優美子さんがそれぞれ選ばれました。

主催者側では、例年と比較して作品の数も多く、内容も充実しており、子供らしい作品が多く、水の色や緑の色も工夫されていた。と選評していました。

来年も多くの参加を期待します。



6年 小平貴博



3年 本田有美

先の六月十二日、育友会、諸先輩、又先生方の御協力を頂きまして学級代議員、先生方の永遠のテーマである「学級部会に一人でも多くの方に参加してもらうには、どうしたらいいのか」を

勉強しよう」と研修会を開きましたところ、私達の予想を遥かに越えた七十名からの御出席を頂きました。この事は、いかに代議員・先生方の関心が高く、「何とかしよう」という気持ちの表れではないでしょうか。各学年ごと的小グループに別れ、その中に、永年育友会で活躍され、実践を重ねてこられた先輩方にアドバイザーとして入ってもらい、アドバイスを受けながら肩のこらない話ができよう、お茶・お菓子など用意しました。そのかいあってか、本音での意見交換が活発に行なわれました。

ごく一部ですが、紹介します。

### 学級代議員研修会を開いて

学級部長 山下博文

○先生と親の親睦を早めに。  
○子供と親の名前を早く覚えるよう名札をつける。  
○親子レクレーションを計画。  
○仕事で時間がとれない人が多いので、夜の部会でもいいのでは。

○学級部会という名前がかたい。  
○共働きの家庭が多いので、参加できない方も気をくばり、部会の内容を知らせ、連絡を密にする。

等、とにかく皆さん一生懸命だという事がひしひしと伝わってきました。部会を盛り上げて行くのは、父母の皆さんです。代議員・先生方が待つておられます。ぜひ一回でも多くの御参加を!!

この研修会が、今後のPTA活動・学級部運営にお役に立つはず。御協力下さった皆さん、ありがとうございました。

# 五日制

私はこう思う!



校長

橋本徹也

今年九月から、毎月第二土曜日をお休みとする学校週五日制が行なわれます。これからの時代をになう子どもたちに、頭でっかちでなく、人間として力強く生きるたくましさを育てようとするのがねらいです。

- 最近の子どもたちの特徴として、体格はよいが、体力がない。
- 指示待ち的で、自ら判断しようとしなない。
- 仲間づくりが下手で、こもりがち。
- 奉仕的な勤労の心がうすい。
- 明るい、たくましさがない。
- 無関心・無気力・無感動。

などがあげられています。

当面、月一回の第二土曜日だけです。この休日を有効に使う、このようなマイナス面をはねのけて、明るくたくましい、自分から行動し、仲間と協調していける子どもへの成長をと念じています。

学校では、子どもたちが自分から学びとる学習に心がけ、学力が下がらないように努めています。今までは、学んで得た知識の量が

「学力」と考えられていました。しかし、新しい学力観では、辞典をひいて調べようとする意欲や態度、野山を歩いて実物にふれて体得しようとする関心、調べた事や知った事を知らせたりする表現力なども大切な学力だと考えられるようになりました。新しい休日が、そんな力のもとになるよう努力いたします。

また、休みとなる土曜日は、学校の運動場や体育館などは、できるだけ開放し利用できるようになります。休日の過ごし方については、計画を立てて安全に過ごすよう指導します。

家庭にお願いしたいこともたくさんあります。家族の一員としての役割を持たせ、日常生活体験をたくさんさせる中で、生きていく上での必要な事を身につけさせてほしいものです。「あなたがいてよかった。家の中が、こんなに明るくなった、きれいになった……」と存在感を味わわせて下さい。親子の対話も多くなり、子どもは、親の生き方や生活の知恵を学んだりするでしょうし、親は子どもの悩みや夢を理解し、援助してやるなど、ふれ合いが深まることを期

待します。

地域では、スポーツや趣味を通して仲間と遊んだり、子ども会行事・育成会行事などに参加することが多くなるでしょう。そんな経験が、その子の人間関係を豊かにし、たくましく、生活力のある子へ育てる道だと思えます。

子どもの教育は、学校にお願いしておけばよいという風潮でしたが、そうでなく、家庭や地域が子どもの育成にもっと積極的にかわろうということから、学校週五日制が発足するのです。

育友会長

友永峰昭

学校週五日制は、十年前前から語られていた「ゆとりと充実」を謳いながら、本年九月から実施される。

ゆとりと充実……実にむずかしい目標である。私自身、今日は充実していたと思った日は、多忙のあとの快よい疲労が感じられる日であり、一方、「今日はゆとりがあったな」という日は、ヒマでゆとりして、むしろ充実した感じの少ない日が多いからです。

# はじまりますよ! 学 校 週



もちろん、これには個人差があり、各人の価値観の違いから、大小の相違があるうと思われます。子供も同様でありましよう。

この「ゆとりと充実」の相矛盾した二つを満足させることは、至難の業に等しいのであります。

ジャーナリズムでは、最近特に子供のゆとりと体験学習のあり方について報じているようですが、その殆どが家庭、地域そして社会とのかかわり方を論じています。

子供の「ひとりひとりを生かす」方策が何であるか、又、大人として具体的に子供とどう接すること

## 【六年生の保護者】

九月より、毎月第二土曜日が休みになるといわれていますが、親達の気持ちとしては、この日が何の意味があるのか、ばくせんと思いた受け止め方しかしていません。学校側や教育委員会のはつきりとした指針を示してほしい。たとえば、休日が増えることによつて、勉強面については、教科書の授業回数のかね合いにより、授業の進み過ぎの結果、くわしく教えることができないのではないだろうか？勉強のおもしろみがなくなったり、よく理解することがで

ができるのかを、各種事例をもとに相談を重ねたいと思います。

育友会としましても、恒例の夏休みの町内訪問等を通じて、皆さんの数多い意見を聞きながら、検討を進めてまいります。

そして、単に学校育友会にとどまることなく、地域の各層の方々との連係の中で、子供の健全育成を図っていく所存です。



きない子供が増え、それにより塾通いの子供が増え、ゆとりを持った楽しい休日を過ごすことができないう気になります。

又、最近では、共働きの家庭が増え、核家族化が進んでいる現在、昔のように祖父母とのふれあいもなく、家庭では子供一人孤立し、ファミコン、テレビ、本などを見て過ごす機会が多くなり、余り良い制度とは言えないと思います。

もし、制度化しようとするなら、親の職場が、同一の休日をとることにより、親子のふれあいができるのではないでしようか？

## 【三年生の保護者】

いよいよ九月から学校五日制が実施されます。新聞などで賛否両論を唱えられています。どの様に対応をすべきか迷うばかりです。社会全体が週休二日制ならずんなりと受け入れられるかもしれないませんが、現実には共稼ぎ、自営業の家庭も多く、子ども達に対して今までできなかった体験を、家庭の方でさせてほしいと言われても、なかなか実行できないのではないでしようか。あまり考え過ぎると、悪い事ばかりが目につけてきますので、肩ひじを張らずに受け止めたと思います。

私は、子ども達と五日制について話し合い、自分達はどうして過ごすか、また、何かに挑戦していくのか身近な事について話して、前向きに考えてみようと思えます。漠然と悩まず、足元から見つめて、今何をするのが子ども達と親にとって大事な事で、楽しい事なのかを考えて、九月からの学校五日制に備えていきたいと思えます。この機会を与えられ、考えをまとめる事ができ、感謝致します。





# 学校週5日制と健全育成会

白山地区青少年健全育成協議会長 上 田 進

九月から第二土曜日を休日とする週5日制実施で、ご心配の事と思います。将来、完全週5日制となると、学校制度の大変革で、家庭・地域社会の役割を全面的に見直す時代になると思います。

週5日制について、連日各地で議論がかわされ、反対や不安の声、社会の受けざらづくりから施設の開放等々、子供の休日の過ごし方を今大人が模索しています。

健全育成会は、青少年が荒れた一九七〇年代に青少年を地域で守り、地域で育てる願いから、地域の総合力を結集して誕生しました。地域で健全な青少年を育成し、非行を防止する為、いろいろな行事を計画し実践してきました。当時、スポーツへの関心が高まり、「きた

える・しごく」過熱の時代を反省し、誰でも参加できる文化習俗伝承等、友達同志で創造し、連帯し、競争し、地域の老人・おじさん・おばさん達と共存し、生きてゆく喜びを育てたいと、いろいろな行事を実践してきました。

私達は、生まれた時から家庭と近隣、地域社会で育ちます。それぞれの地域には、永い間の伝統や習俗、人間関係の絆があります。そういうものを大事に守り、育て伝承していくことが失われてはなりません。心の回帰は足元からです。「あいさつ」、「地域を美しくする運動」など、育成会の大事な努力目標です。

## 提 言

- ★太陽の光のもと、野外で思いつき心身を伸ばし、鍛練してほしい。
- ★第二土曜・日曜日は、「よく遊ぶ」ゆとりの日として楽しむことに徹底してほしい。
- ★たくさん遊んで友達と共創し、連帯感を強めてほしい。
- ★友達との連帯の中で友情を高め、思いやりのある心を養ってほしい。
- ★自然を愛し自然を育て、ふるさとを見つめ、地球環境に関心を持ってほしい。
- ★汗を流す奉仕や、お手伝いなどの機会の日にしてほしい。
- ★自分の家と自分の家族の中で、自分の生きる力や自分の夢を描き育ててほしい。

## 学校週5日制に伴う特別企画事業計画

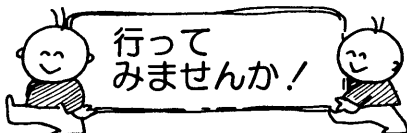
番号	事業名	期日	対象	募集人員
1	楽しくすべろう 草スキー ～草スキーと野外パーティーのつどい～	9/19(土) 9/20(日)	小学1年 ～6年生	300
2	さわやかふれあい親子体験 ～集まれファミリー青空料理～	10/10(土) 10/11(日)	家 族	100
3	秋の軽スポーツ大会 ～集まれ! スポーツ大好き仲間～	11/21(土) 11/23(月)	小・中学生	300
4	老人と子どものふれあい広場 ～遊ぼう! 作ろう! 話そう! ふれあいスクール～	12/12(土) 12/13(日)	小学生と 高 齢 者	200
5	干潟の渡り鳥観察 ～諫早湾の冬鳥たちを探そう～	1/9(土) 1/10(日)	小・中学生 及び家族	100
6	野生動物探険隊 ～野うさぎさんと逢えるかな～	2/13(土) 2/14(日)	小学1年 ～6年生	300
7	お姫様 いらっしやい! ～心ときめく女の子のつどい～	3/13(土) 3/14(日)	小・中学生	300

わがが濃密になってくるものと思っています。たくましく心豊かに自ら判断し、行動する子供の為の週5日制が、大人社会の身勝手な制約の洪水にしばられないことを願っています。「あす土曜日は休み、宿題なし」「ヤッター!」腹の底から喜ぶ声。

あす土曜日の休みをどうすごそうか、自ら選択し、判断し、行動する生き生きと輝やく子ども達の週5日制。そんな5日制を応援します。 ※平成四年三月二十五日発行、健全育成会報に「学校週5日制への提言」を参照してください。

### 国立諫早少年自然の家

長崎県諫早市白木峰町1109-1  
TEL (0957) 25-9111  
FAX (0957) 25-9115



# 修学旅行を

## 終え

稲 栄 浩 保

五月二十五日・二十六日の二泊二日の日程で行ってきました。教師の立場からの修学旅行ということで記したいと思います。

まず、出発前に一番気がかりなのが、学級全員が元気に参加できるようにということ。一週間前から「病気をしないように」とか、「けがをしないように落ち着いて生活しよう」と、事ある度に話



—熊本市博物館にて—

してきました。出発当日、学校へ来て欠席の連絡がなかったことでひと安心でした。

次に、旅行中の天気のことです。これは、不可抗力なことなのですが、できれば晴天であってほしいという願いがありました。二日間とも晴天で、とても良い旅行となりました。

旅行中では、「子ども達の安全に気を配る」ということです。旅行前にも指導をしていきますが、いざ旅行となると子ども達は大きじやぎで、我を忘れて行動することもしばしばあります。しかし、せっかくの楽しい旅行を、先生の注意ばかりでは楽しさが半減してしまいます。そこで、注意するタイミングが必要となってきます。幸い、今回は大きな注意を受ける子どもなく、病気やけがをする子どもませんでした。

二日間の見聞で、社会に対する目が広がり、心がひとまわり成長したのではないのでしょうか。もしこの旅行で、子ども達が何か大切なものを得ることができたとして、多くの心配をしたかいたし、担任としてもこれ以上嬉しいことはありません。

広馬場のバス停裏に、小さな水神様がおまつりしてあります。これは、島原市内で最も交通量の多い、広馬場交差点がある下広馬場町内会が子供たちの交通安全を願い、おまつりしてあるものです。

昭和三十年代の初め、まだ自動車の交通も少なかったころ、広馬場交差点で交通事故があい



ふるさと再発見  
広馬場の「水神様」

の台座をもらい受け、現在の場所におまつりしました。それ以来、今日まで交差点内での重大事故は無く、無事に過ごしてきました。

現在は、毎日多くの三小の児童が、登下校で横断歩道を渡ります。五小の児童も、バス通学のために一緒に渡ります。私共町内会では、一件の子供たちの事故が無い様に、水神様をお願いをしつつ、危険な渡り方をする子には注意をする様心掛けております。

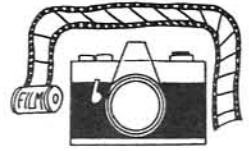
平成元年には、水神様のまわりに桜の幼木を植え、元年桜として成長を楽しまにし、毎年桜の花の時期に水神祭りを催しております。

水神様は、いつもやさしいお顔で、子供たちの安全を見守ってくださいます。皆様も、水神様の前を通られる時には手を合わせ、我が子の安全をお願いしてください。(古川隆三郎・記)

つぎ、幼い子供が犠牲になる悲しい事故もありました。広馬場界隈は、昔から清水がこんこんと湧き出し、水の恩恵にあずかっている町でもあります。その町内に当時、一体の石の仏像が無造作に放置してありました。交通事故を心配する大人たちが、この石像を水神様としておまつりする事にし、八幡神社より石



出ました 出ました! 灰の山



育  
友  
会  
フ  
ォ  
ト

目で見える専門部活動紹介



同姓でも関係はありません



私はダレ?



シンチョウに!



今年初めてのプール泳ぎ! うれしいわ!

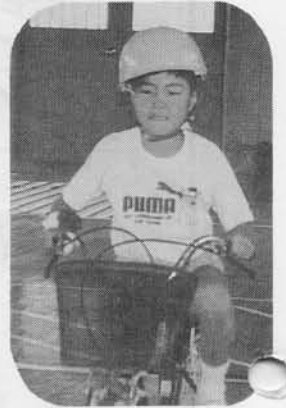




先をよく見てね



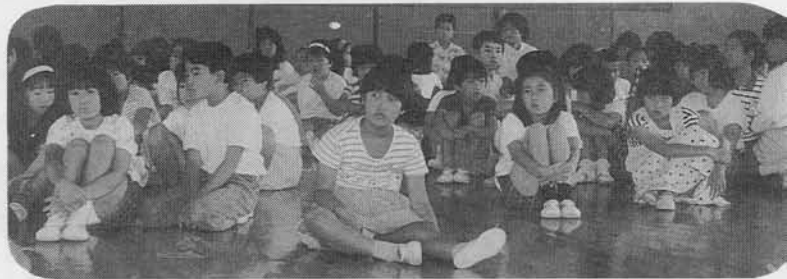
ユックリととまります!



緊張します!



ブレーキテストです



あ〜あ まちくたびれるな〜!

「猿も木から落ちる」誰もが知  
 っている有名なことわざです。と  
 ころで、なぜ猿は木から落ちたの  
 でしょうか。五月二十二日、六月  
 五日、二回にわたり、環境部によ  
 る交通教室が、三年生を対象に開  
 かれました。慣れと油断がもとで、  
 木登り上手な猿さえも痛いめにあ  
 いました。

事故がおきないよう、基本を中  
 心に熱心に指導されていた姿が強  
 く印象に残りました。

交  
 通  
 教  
 室



チョット くたびれた!

# カブトムシありがとう

カブトムシやクワガタなどが飛び交う季節です。子どもたちは、こんな昆虫が大好き!

松田工機の松田鶴一さんが、子どもたちの観察学習のために、カブトムシの幼虫やサナギをたくさん寄付して下さいました。

一年生・二年生の全学級と、理科室に飼育槽に入れて置いております。子どもたちは、毎朝のぞきこんでは、その成長を楽しみにしているようです。

松田さんは、特別な仕組みで外から幼虫やサナギを観察できるよ

う工夫しておられます。松田さんは第三小、昭和十年の卒業生で、姫野学君のおじいちゃんです。

六年生の学君が幼稚園の時、「カブトムシを採って来て」と頼まれたのが、昆虫とつき合うようになったきっかけだそうです。なかなかの昆虫学者で、まさにカブトムシ博士です。

校長 橋本徹也



## 健康部だより



六月十五日(月曜日)健康部では、学校給食に対するご理解を深めていただくとうと、一年生の保護者を対象に給食試食会を実施しました。

一〇〇名程の方が参加され、楽しく有意義なひとときを過ごすことができました。

アンケートにもご協力いただき、子ども達の様子がうかがえました。アンケートの一部を紹介します。

★箸や食器を正しく使う。

七三、四%

★正しい姿勢で食事をする。

七五、〇%

★偏食をせず何でも食べる。

三三、三%

他に、今回の試食会、学校給食に対するご意見・ご感想をお聞きしたところ、「おいしくて楽しい試食会だったので、毎年実施してほしい」、「家では食べないものでも、学校ではみんなが一緒なので食べていた」、「代金が少なく、手がこむ料理で親として助かる」、「栄養のバランスを考えてほしい」、「ご飯の食器や皿を工夫してほしい」などの貴重なご意見をいただきました。

出席していただいた保護者の方をはじめ、学校関係の先生方、育友会の皆様のご協力をいただきました。ありがとうございます。

### 編集後記

明日から、楽しい夏休みです。一七号は、休みに考えて頂く問題として「学校五日制」を取り上げてみました。子供さんといっしょに話し合ってみて下さい。いろんな意見が出ると思います。

「ふるさと再発見」のコーナーと共に、ご投稿をお待ちしております。

事故のないすばらしい夏休みをお過ごし下さい。

(広報部)

### 〔夏休み以降の行事予定〕

- 7/20 一学期終業式(夏休み)
- 7/20 生活部・町内訪問~24日迄
- 8/5 校内球技大会・監督会議
- 8/23 市P連・主催ドッジボール大会
- 8/25~31 校内球技大会練習の為、運動場開放
- 9/1 二学期始業式
- 9/6 校内球技大会(ドッジボール)~校庭
- 9/27 三小秋季運動会